

過去の地震に学ぼう

四日市・うつべ町かど博物館 絵図や写真70点並ぶ

【四日市】四日市市采女町のうつべ町かど博物館（東川修運営委員会会長）で、防災特別企画展「温故

知震く昔の地震に学び、南海トラフ地震に備える」が始まっている。過去の地震の資料や絵図、写真、自助



・共助の防災についての資料など約七十点を展示している。水曜、土曜、日曜日、祝日の午前九時から正午、六月二十九日まで。宝永四（一

七〇七）年の宝永地震、安政元（一八五四）年の安政東海・東南海地震、昭和十九（一九四四）年の昭和東南海地震などの発生を報じた出版物や被害状況などと、統計による周期から、今後三十年以内に東海地震が発生する可能性が88%と予想されることなどを記した資料が並ぶ。

地震とそれに伴う津波の怖さを「知る」ことから、地震に強い家にする事、自主防災活動などで「備える」、発生時の的確な「行動」の確認が減災につながる」としている。

企画した東川会長（七四）と稲垣哲郎副会長（七三）が、桑名、四日市の両市立図書館や市町村のホームページなどで調べ、三カ月がかりで

参考資料をまとめた。「いつ起こるか分からない地震に対して、危機感を持って備えていただきたい」と話している。